

第6学年 国語科学習指導案

1 単元名・教材名：筆者の説明の工夫を読み取り，絵の解説文を書こう

『鳥獣戯画』を読む』光村図書6年

2 単元目標

◎目的に応じて，文章や図表などを結びつけるなどして必要な情報を見つけたり，論の進め方について考えたりすることができる。(思・判・表 C (1) ウ)

○語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して，語や語句を使うことができる。(知・技 (1) オ)

○筋道の通った文章となるように，文章全体の構成や展開を考えたりすることができる。(思・判・表 B (1) イ)

○文章全体の構成や書き表し方に着目して，文や文章を整えることができる。(思・判・表 B (1) エ)

言語活動：表現や構成を工夫して絵の解説文を書く。

3 単元について

(1) 教材について

この教材文は国宝『鳥獣人物戯画』の一場面を取り上げて作品の価値を解説した説明的文章である。巧みな表現方法や分かりやすい論の展開によって筆者の主張が強く伝わってくる。

アニメーション映画監督でもある筆者の高畑勲氏は，この教材においてあえて絵を切り離して場面ごとに説明するなどその特徴的な視点や表現方法によって『鳥獣人物戯画』の価値を表現している。絵の見せ方だけでなく，書き出しや会話文，体言止め，呼びかけなど，読み手をひきつける工夫が随所に散りばめられている。

文章の構成については三段構成の尾括型として捉えることができる。まず，児童にとってなじみのある漫画やアニメーションと絵や絵巻物との共通点を説明し，『鳥獣人物戯画』が『漫画の祖』，『アニメの祖』と言えることを記すことで題材に対して関心を高めようとしている。次に，作者の筆さばきの素晴らしさや，絵巻物としての流れる時間性を表す巧みさを詳しく説明する。さらに，『鳥獣人物戯画』の絵画的な位置付けを説明し，絵を用いて物語ることが日本文化の大きな特色でもあることも紹介する。そうした説明を受けて，『鳥獣人物戯画』は世界を見渡しても他に類を見ないものであり，この作品を現在にまで残してくれた先人の想いも踏まえ『人類の宝』でもあるという主張で結んでいる。

この教材を通して筆者の細かな着眼点と豊かな評価語彙にふれることで，児童は筆者のものの見方や考え方を知ることができる。また，書き出しや文末表現など，読者をひきつけつつテンポよく読ませる工夫も学べる。さらに，絵の見せ方や論の展開を考えることで説得力をもって自分の考えを伝える文章の組み立て方を知ることでもできるだろう。

(2) 指導について

これまでに児童は、教材「笑うから楽しい／時計の時間と心の時間」において筆者の主張とそれを支える事例を捉えることを学習している。また、教材「たのしみは」では、伝えたい思いや体験を思い出し、三十一音という制限の中で効果的に伝えられるよう言葉を選んだり書き方を変えたりする学習に取り組んだ。こうした学習経験を基にして、筆者の主張に対する事例の選び方や順序を、その効果と合わせて理解する力、読み手をひきつける表現や構成を考えて文章を書く力を身に付けさせたい。

そこで本単元では、教材文を参考にしながら「表現や構成を工夫して絵の解説文を書く」言語活動を設定した。絵のどこに着目し、どのように表現すればよいのか。また、どのような展開で表現すればよいのか。そうした問いを立てながら教材文を詳しく読むことで、より主体的で効果的な学習が期待される。学習を進めるにあたってはデジタル教科書のさまざまな機能や資料を用いて次のように指導を行う。

まず、教材文を読む前に『鳥獣人物戯画』の一場面についての解説文を書かせる。ここでは、指導者用デジタル教科書の挿絵印刷機能や学習者用デジタル教科書の挿絵拡大画面を使う。これは児童の注意を絵だけに向けさせ、絵を詳しく見てその表現方法を考える経験をするためである。初めのうちは何に着目すればよいのか、どのように表現すればよいのか分からず、難しく感じることもあるだろう。この経験によって児童は必要感をもって教材文と向き合うようになる。教材文を通読する際には、朗読音声機能や全ての漢字に読み仮名を表示できる総ルビ表示機能を用いる。理解しやすい再生速度や表示方法は、一人ひとり異なる。自分に合った方法で教材文と出会わせるようにしたい。

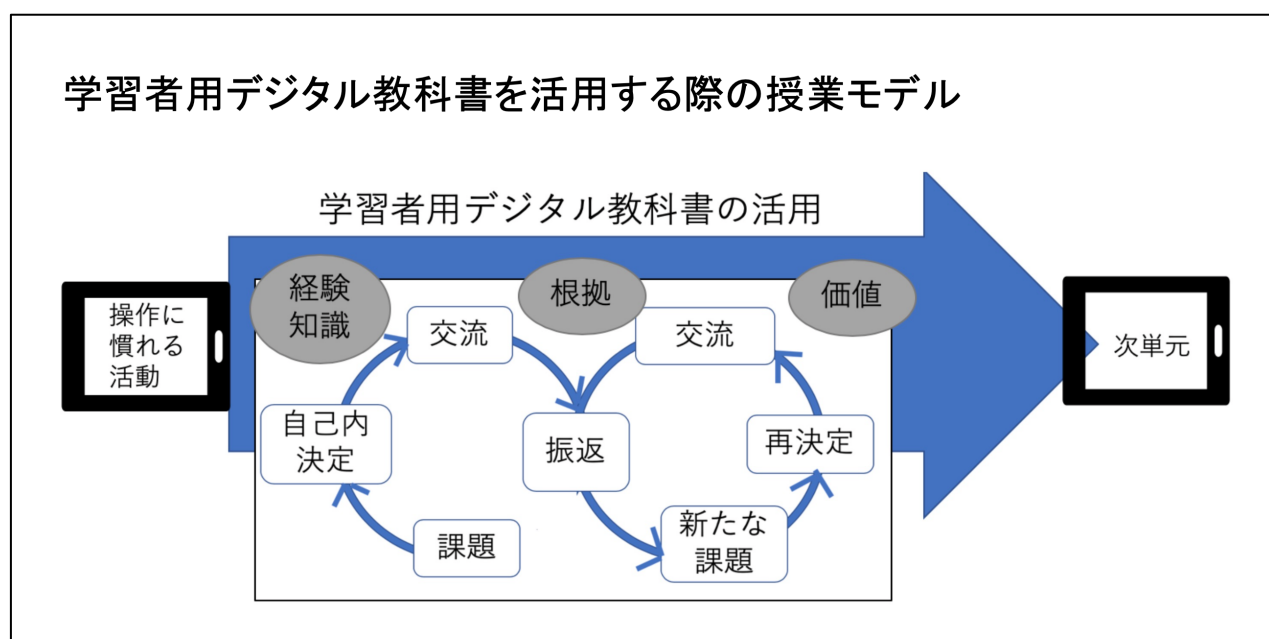
次に、初めに自分が書いた文章と見比べながら教材文を読む。そして、筆者の優れた表現を見つけて教科書画面にマーカーを引く。ノートに書き写すときと比べてマーカーを引くほうが児童にとって負担が少なく、活動に取り組みやすい。初めに解説文を書く活動を行なっているからこそ児童は「表現者」として、筆者の力を素直に受け止め、その優れた多くの表現にひきつけられるだろう。ここでの書き込みは単元後半で解説文を書き直す際に見返すことになる。続く活動では、筆者が絵のどこに着目し、どのように評価しているかを読み取らせる。このとき教科書画面の絵と本文を線で結びながら具体的に押さえる。実際に書き込ませることで、絵と文章との対応をどれだけ押さえられているか、見取ることができる。児童らには先の活動と書き込みが重ならないように書き込みシートを切り替えた上で取り组ませる。

その後、本文抜き出し機能を用いて筆者の説明の工夫を詳しく読み取る。説明の工夫は「表現」「論の展開」「絵の示し方」の三観点に分けて整理させる。本文抜き出し機能を使えば、教材文から言葉を自由に抜き出せるだけでなく、抜き出した表現の移動・削除を簡単に行うこともできる。児童によって表現の効果を感じる表現、つまり抜き出す表現は異なる。当然まとめ方にも違いが現れるだろう。指導にあたっては全員を同じ画面に整えようとするのではなく、あくまで児童が理解したり説明したりするためのツールとして使わせるようにしたい。それと同時に、児童には自分の画面にこだわり続けるのではなく、対話を通して相手の意見に納得したときは相手の意見を取り入れ、積極的に自分の読み方を広げられるよう指導する。というのも、初め個人で作成した画面は不完全で未完成なものにならざるをえない。ペア対話を通して個人の気付きが広がり、一斉の場面では教師が介入することによって児童の

読みの視点が整理されていく。そして、再び個人作業に戻り、対話を通して得られた新たな気づきを手がかりにして自分の読みを再構成し、さらにペアや一斉での交流を行い互いの読みについて理解を深めるのである。学習者用デジタル教科書、特に本文抜き出し機能を用いた学習は、こうした個別・ペア・一斉のサイクルを活発に回していくことが重要である。具体的には「学習者用デジタル教科書を活用する際の授業モデル」〈図1〉を参照されたい。この考えに立ち、本單元において本文抜き出し画面を活用する第6時と第7時は、2時間連続で実施するよう設定している。

単元の最後にはこれまでの学習を生かして『鳥獣人物戯画』の一場面を評価する解説文を書く。教材文と同じ絵を用いてもよいし、学習者用デジタル教科書に収録されている『鳥獣人物戯画』の他の場面の絵を使って書かせてもよい。児童には、自分が取り入れたいと思った筆者の説明の工夫を参考にさせながら解説文を書かせる。その後、初めに書いた文章と読み比べて自分ができるようになったことを見つけたり、友達と文章を交換して読んで互いのよい表現を話し合ったりするようにする。

本單元での学習経験は、表現の特徴に気を付けて考えや述べ方の共通点や相違点を見つける「メディアと人間社会／大切な人と深くつながるために」、自分の思いがよりよく伝わる表現について詳しく考える「思い出を言葉に」の学習につながる。



〈図1〉学習者用デジタル教科書を活用する際の授業モデル

4 指導計画（9時間扱い）

次	学習活動	デジタル教科書の活用例 【指】【学】
第一次 つかむ	<p>①『『鳥獣戯画』を読む』p.146-147の絵を見て、解説文を書き、単元の流れを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 『鳥獣人物戯画』を解説した文章を読み、そこから筆者の表現の工夫をたくさん集め、改めて解説文を書くという単元の流れを知る。 	<p>【指】Tサポートで挿絵を印刷したものを児童に配布する。</p> <p>【学】挿絵拡大画面を表示する。</p>
第二次 深める	<p>②③教材文を通読し、筆者の主張および本文の構成を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 『漫画の祖』『アニメの祖』でもある国宝『鳥獣人物戯画』は、『人類の宝』でもあることを押さえる。 第1－7段落では挿絵を基に描かれ方について解説されていること、第8・9段落では日本文化や世界と比較しての価値について述べていることを押さえる。 <p>④自分の文章と教材文とを比べ、筆者の優れた表現を見つける。</p> <ul style="list-style-type: none"> 筆者の優れた表現を見つけ、教科書画面上にマーカーを引く。 <p>⑤筆者が『鳥獣人物戯画』の「どこに」着目して、「どのように」表現しているかを読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 絵と文章との対応について、教科書画面上に書き込みを行いながら確認していく。 <p>⑥⑦筆者が、自分の考えを小学六年生の読者に伝えるためにどのような工夫をしているか考える。*本時</p> <ul style="list-style-type: none"> 本文抜き出し機能を使って、筆者の説明の工夫を「表現」「論の展開」「絵の示し方」の三つの観点で抜き出して整理する。 抜き出した表現について、読者にとっての効果を考えて書き込む。 	<p>【学】朗読音声を再生する。</p> <p>【学】教科書画面を総ルビ表示にする。</p> <p>【学】絵の魅力が伝わる表現を見つけて、教科書画面の書き込みシート①上にマーカーを引く。</p> <p>【指】書き込み例を示す。</p> <p>【学】教科書画面の書き込みシート②上に絵と文を結びつけながら書き込む。</p> <p>【学】筆者の説明の工夫を、本文抜き出し機能を使って整理する。</p>
第三次 広げる	<p>⑧『『鳥獣戯画』を読む』から得た説明の工夫を参考に、『鳥獣人物戯画』の一場面の解説文を書く。</p> <p>⑨解説文を読み合ってお互いのよい表現を見つける。単元を振り返る。</p>	<p>【学】資料や挿絵拡大画面を用いて、絵を詳しく見る。</p> <p>【学】筆者の説明の工夫を思い出すために、教科書画面や本文抜き出し画面を見る。</p>

5 本時について

(1) 本時の目標

筆者が考えを効果的に伝えるために用いた説明の工夫について、その効果と合わせて説明したり整理することができる。

(2) 本時の展開 *第6時と第7時を連続して実施することを想定。

【第6時】1めあての確認(2分)→2個別①(10分)→3ペア①(10分)→4一斉①(10分)→5個別②(13分)

【第7時】6ペア②(10分)→7一斉②(7分)→8個別③(8分)→9個別④(18分)→10まとめ(3分)

時間	学習活動	指導の留意点
2分	1 本時の学習のめあてをつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> ●第二時で読み取った筆者の主張が書かれた段落と、主張の内容を振り返る。 ●筆者の工夫を「表現」「論の展開」「絵の示し方」の三観点で捉えるよう説明する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 筆者が、自分の考えを小学六年生の読者に伝えるためにどのような工夫をしているかまとめよう。 </div>		
10分	2 (個別①) 筆者の工夫を見つけ、本文抜き出し画面に整理する。	<ul style="list-style-type: none"> ●「表現」「論の展開」「絵の示し方」を一つの画面にまとめる。それらが区別できるよう見出しをつけたり、線で区切ったりするよう指示する。 ●まずは特に「小学六年生(=自分)」にとって分かりやすい表現を中心に抜き出させることで活動に取り組みやすくする。 ●表現のそばに、読み手にとっての効果も書かせるようにする。「ふせん」機能を使えば多くの文字を入力できるが、あくまで交流や発表用のメモとしてできるだけ短く書かせればよい。(例：分かりやすい。テンポがよい 等) ●「問いかけ」や「体言止め」など該当する表現が複数ある場合は、抜き出したカードを近づけたり、線で囲んだりしてまとめさせる。
10分	3 (ペア①) 筆者の工夫について、交流する。	<ul style="list-style-type: none"> ●抜き出したカードを読み上げるだけでなく、その表現が読者にとってどのようなよさがあると考えているか付け加えさせる。 ●一方からずっと話し続けるのではなく、対話を心がけるように声かけを行う。 ●相手の意見に納得したら、積極的に自分の画面に取り込むよう指示する。

10分	<p>4 (一斉①) 表現や構成の工夫と、その効果について、クラス全体で確認する。</p> <p>表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ はっけよい、のこった (会話文から始める…読み手をひきつける。 ・ 蛙が蛙掛け (体言止め) …テンポよく読める。 ・ まるで人間みたいに (比喩) …絵のよさが伝わりやすい。 ・ ぱっとページをめくってごらん。(呼びかけ) / どうだい。(問いかけ) …わくわくしながら読める。 <p>論の展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ いきなり鳥獣戯画の説明するのではなく、実況中継みたいな書き方がされている第一段落と第二段落から読むと親しみをもって読める。(導入の工夫) <p>絵の示し方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 絵巻物を別々の絵に分けて出すことで、アニメーションの効果を読者に実感させている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 教材文冒頭から取り組む児童が多いだろう。そのため児童は前半第一段落・第二段落から「表現」を中心に探し出そうとすることが予想される。まず、それらの段落を中心に確認していく。 ● 教師は、表現そのものだけでなく () 内のように、修辭的な用語を説明する。 ● 友達の画面を見たり、話を聞いたりして納得したり気付いたりしたことがあれば、積極的に自分の画面に取り込むよう指示する。 ● 教師は、「表現」ばかりではなく、「論の展開」、「絵の示し方」についても目を向けさせていく。 ● 「論の展開」について意見が出ない場合、鳥獣戯画そのものの説明が第三段落から始まっていることを指摘し、第一・二段落の必要性や役割について問いかけて構成に目を向けさせる。そして、次の個別活動時に気付いたことを本文抜き出し画面に追加するよう指示する。 ● 「絵の示し方」について意見が出ない場合、鳥獣戯画の一連の絵がどうして二つの場面に分けて使われているのかを問いかけて、目を向けさせる。そして、次の個別活動において、気付いたことを本文抜き出し画面に追加するよう指示する。
13分	<p>5 (個別②) 筆者の説明の工夫とその効果について、本文抜き出し機能を使ってまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 文中の表現はできるだけ短く抜き出すこと、抜き出したカードの近くに「問いかけ」や「体言止め」「言い切り」など抜き出したカードに共通する修辭的特徴を書いたり入力したりするよう指示する。 ● 抜き出したカードは見出しをつけたり、色、配置を分けたりして、自分で分かりやすいよう整理するよう指示する。
10分	<p>6 (ペア②) 自分が見つけた筆者の工夫を、本文抜き出し機能を使って友達に説明したり、修正し直したりする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 筆者は様々な工夫をしていることを強調し、友達と協力して筆者の工夫をたくさん集めるよう意欲づける。 ● 見つけた筆者の工夫 (「表現」、「論の展開」、「絵の示し方」と、その効果を説明させる。 ● 一人で話しすぎることのないよう対話を心がけるように繰り返し指導する。 ● 友達の話を聞いて納得したら、取り入れたり、画面を修正したりするよう指示する。 ● 画面の修正にあたっては、文中の表現はできるだけ短く抜き出すこと、抜き出したカードの近くに手書きや入力で説明を短く書

7分	<p>7 (一斉②) 筆者の伝えたいことと、表現や構成の工夫との関わりについて、クラス全体で確認する。</p> <p>表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 見てみよう (呼びかけ) / 気がついたかな (問いかけ) …筆者と一っしょに読み進めている感じがする。自分の考えをもちやすい。 ・ 止まっていない。動きがある (言い切り) …テンポよく読める。 ・ まるで漫画やアニメのような (比喩) ええい、ゲロロ (具体的な会話文) …絵の内容を具体的にイメージしやすい。 <p>論の展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 鳥獣戯画そのものの説明をしてから、絵巻の歴史の話をしているので、鳥獣戯画が国宝、人類の宝であることが分かりやすい。 <p>絵の示し方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ もともとは一枚の絵巻物を場面ごとに分けて詳しく見せているから、鳥獣戯画が漫画の祖、アニメの祖であるというどちらの説明も分かりやすい。 	<p>くよう指示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 表現の工夫ばかりに目が向いているようであれば、ここで「文章をいくつかのまとまりに分けられるか」「それぞれの順番で説明しているのか」「なぜ、同じ絵を二回使っているのか」と問い、「論の展開」や「絵の示し方」に目を向けて意見を出させる。 ● すぐれた表現や構成だけでなく、その効果についても説明させる。 ● 表現そのものだけでなく、教師が修辭的特徴を説明する。 ● 「呼びかけ」「問いかけ」「比喩」「言い切り」などは複数の段落で用いられている。修辭的特徴に対して複数段落から表現を抜き出している児童の画面を提示して、まとめ方の参考にさせる。
8分	<p>8 (個別③) 筆者の伝えたいことと、表現や構成の工夫との関わりについて、マイ黒板にまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 「筆者は、なぜそうした工夫をしたのか」「そうすることによって、読み手にとってどんなよいことがあるのか」と問い、工夫を筆者の主張との関わりの中で捉え直す。 ● 「表現」「論の展開」「絵の示し方」の三つのまとまりに分けて本文抜き出し機能を整理するよう指示する。 ● 表現はできるだけ短く抜き出すこと、抜き出したカードの近くに「問いかけ」や「体言止め」「言い切り」など抜き出したカードに共通する修辭的特徴を手書きや入力で説明を短く書くことを指示する。
18分	<p>9 (個別④) 筆者の工夫について、「表現」「論の展開」「絵の示し方」の三点に分けてまとめるにまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 筆者の説明の工夫を視点ごとにまとめる。活動に際しては、本文抜き出し機能を使ってまとめた画面を見てもよい。

3分	<p>表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「言い切り」「体言止め」などを使っているからテンポよく読みやすく、ひきこまれる。 ・ 「呼びかけ」「問いかけ」を使っているから、ところどころ立ち止まって小学生でも考えながら読める。 ・ 絵の中の登場人物の会話文を想像して書いているから、小学生でも具体的にイメージしやすい。 <p>論の展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 僕たち小学生の読み手に分かりやすいように、絵の実況中継から書き始めてひきつけて絵のみ力を伝えてから、「鳥獣戯画」の説明を始めている。(文章前半の工夫) ・ 絵のよさを具体的に説明してから、歴史の話をしているので、「鳥獣戯画」が今も昔も優れていることがよく分かる。(文章前半と後半のつながり、構成の工夫) ・ 小学生にとって分かりやすい絵そのものの説明をした後に、絵だけでなく、絵を描いた人、現在まで保存してきた人の心の話をしているので『人類の宝』であるという考えが納得しやすい。(主張の妥当性を高めるための説明順の工夫) <p>絵の示し方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一枚の絵巻物を場面ごとに分けて詳しく見せているから、鳥獣戯画が漫画の祖、アニメの祖であるというどちらの説明も分かりやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ●手が止まっている児童には、筆者の説明の工夫は一つではないことを強調し、一つの視点に対して、複数書いてもよいことを伝える。 <ul style="list-style-type: none"> ●教材中で筆者が用いていた説明の工夫とその効果について確認し、筆者がどのような思いで小学生に向けてこの文章を書いたか想像させる。 ●次時は、自分たちで紹介文を書くことを思い出させ、筆者の工夫を参考にすることを説明する。
----	---	---

(3) 評価

- 教材文から読み取った筆者の説明の工夫について抜き出した言葉を整理して、読者にとっての効果について書いたりしている。(本文抜き出し機能)
- 筆者の工夫(表現、論の展開、絵の示し方)を読み取り、それらの工夫とその効果について説明している。(ノート)